



2017年9月11日

高砂熱学グループとして初めての 「コーポレートレポート」を発行

高砂熱学工業株式会社
本社:東京都新宿区新宿6-27-30
会長兼社長・大内 厚、資本金131億3,491万円

高砂熱学工業は、2011年度より発行を続けていた「CSR報告書」に替えて、当社グループの現況と中長期的な価値創造プロセスを紹介する「TAKASAGO CORPORATE REPORT 2017」を発行しました。

本レポートは、当社グループとして初めてとなる統合報告であり、7100部を発行しました。当社グループの中長期的な経営戦略に加え、連結決算データやROE・総還元性向などの財務情報を拡充し、環境保全や社会への配慮、研究開発・人材育成・ガバナンス等を含めた非財務情報を充実させることにより、投資家をはじめとする全てのステークホルダーに、当社グループの成長ストーリーを理解していただくことを目指しています。

全46ページからなる本レポートは、「ビジョンと概況」、「価値創造への取り組み」、「グループ事業」、「CSR経営」の4つのコンテンツとそれぞれの取り組みについて紹介しています。

<コーポレートレポートの構成>

- ① ビジョンと概況 (P3-11)
トップメッセージ、企業情報、沿革、業績ハイライト
- ② 価値創造への取り組み (P13-22)
高砂熱学グループの価値創造、中期経営計画、[特集]FM・PMサービスの展開
- ③ グループ事業 (P23-27)
高砂熱学グループの事業、国内グループ会社、海外グループ会社
- ④ CSR経営 (P29-44)
高砂熱学グループのCSR経営、公正で透明性の高い経営、コーポレートガバナンスの充実、お客様満足度のさらなる向上、研究開発、環境保全への貢献、従業員満足の実現、社会との調和

「ビジョンと概況」のトップメッセージでは、長期経営構想の第1ステップとなる「変革の基礎づくり」をテーマとした”iNnovate on 2016“(2014-2016年度)を振り返ったうえで、第2ステップである、「成長に向けた変革の断行」”iNnobate on 2019 just move on!”(2017-2019年度)について、脱炭素社会に向けた環境エンジニアリングの事業展開や、大規模な機構改革を行った狙い、新技術研究所の建設など、今後の成長戦略について解説しています。

「価値創造への取り組み」では、FM(ファシリティマネジメント)・PM(プロパティマネジメント)サービスについて特集し、変化する顧客ニーズを成長機会と捉え、「工事+ソリューションのハイブリット型ビジネス」により、ビルのライフサイクルをフルカバーするファシリティパートナーを目指す取組みを説明しています。

「グループ事業」では、当社グループのワンストップサービスの概要を、「CSR経営」では、全15ページに亘り、環境や社会への配慮、研究開発・人材育成・コーポレートガバナンス等について、基本的な考え方や体制・活動内容などを、実績値を踏まえて紹介しています。

10月下旬には英語版についても発行する予定です。

以上

＜コーポレートレポートの表紙とトップメッセージ＞



本件に関するお問い合わせ先
 高砂熱学工業株式会社 経営企画部 広報室 土屋、鷲尾まで
 Tel:03-6369-8215(直通)